

2019年度 愛知学泉短期大学シラバス

科目番号	科目名	担当者名	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
24602	救急看護 Emergency nursing	木村 典子	専門	2	選択	2年後期

**科目の概要**

救急は、健康に生きることをおびやかす身体の危機状態であり、突然おこるケガや病気、状態の急変などです。救急は時と場所を選ばず発生するものであり、緊急時の対応や処置が、傷病者の生死、その後の人生を左右します。医師や看護師など救急医療に携わる人ばかりではなく、多くの人々が一般常識として救急処置を見につけておくことが大切となってきます。救急に関心を持ち、救急処置の基本を身につけていきます。医事管理士に資格を取得して、将来、医療現場で医療事務として働いていくために必要となる知識・技能の修得を目指していきます。知識・技能をもって、身近でおきた救急場面で対応ができることは、本学の精神である特に、奉仕につながっていくことになる。

学修内容	到達目標
① 救急に対応することが必要となる疾患(窒息、冠動脈疾患、腹痛、急性アルコール中毒、骨折、てんかん、過換気症候群)と対応(意識の見方、回復体位、気道確保、安楽な体位・呼吸、固定法)について学ぶ。	① 救急に関する疾患知識(窒息、冠動脈疾患、腹痛、急性アルコール中毒、骨折)と対処方法(意識の見方、回復体位、気道確保、安楽な体位・呼吸、固定法)を連動させて説明することができる。を学び理解する。
② 医療と倫理に学び、いのちに対する畏敬の念をもつ。	② 「安楽死」と「無益な治療の中止」の事例から、いのちについて、倫理を説明できる。
③ 救急手技(心臓マッサージ、人工呼吸、AEDの使い方、包帯法、止血手当)を知り、いざという時に行動にうつせるように実技を学ぶ。	③ 実際に救急処置(心臓マッサージ、人工呼吸、AEDの使い方、包帯法、窒息、止血・熱傷手当)を実践し、救急手技を習得する。
④ 大学で多くみられる救急場面を調査し、対処方法を考え、まとめる。	④ 大学で多くみられる救急場面を調査し、対処方法を考え、学泉救急マニュアルが作成できる。

**学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素**

**学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例**

前に踏み出す力	主体性	必要な知識についてさらに深めた理解するために、教科書文献を使って、自己学習ノートを作成できる。
	働きかけ力	
	実行力	目標を設定して、知識習得のために、最後まで、やりぬくことができる。実技に関しては練習をして臨んでいる。
考え抜く力	課題発見力	主観的情報、客観的情報を連動させて、課題を考えることができる。
	計画力	
	創造力	課題を考えるとき、自己の固定観念にとらわれることなく、文献を活用したり、他者からの意見を取り入れ、考えることができる。
チームで働く力	発信力	グループで話し合った結果をパワーポイント・資料を作成し、発表原稿を準備し、発表できる。
	傾聴力	グループワークで、人の意見を確認し、さらに自分の意見がのべることができる。
	柔軟性	
	状況把握力	
	規律性	無断欠席、遅刻、私語など講義に支障をきたす行動をせず、欠席した場合の分の補充ができるよう、クラスのメンバーなど聞き、行うことができる
	ストレスコントロール力	

**テキスト及び参考文献**

テキスト: 使用しない。資料を配布する。

参考文献: なし

**他科目との関連、資格との関連**

他科目との関連: なし

資格との関連: 医事管理士

学修上の助言	受講生とのルール
授業での話し合いのため、課題を出します。課題にそって、レポートして来てください。小テストを実施します。復習をしてください。	積極的に取り組み、協調性をもって授業に臨んでもらいたい。欠席や遅刻の多い学生、授業態度の悪い学生はマイナスに評価する 実技の正確性以外に、エビデンスの理解ができているかどうかを評価の対象とする。

【評価方法】

評価方法	評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント	
筆記試験	40	①	✓	救急の疾患の状態と対応(冠動脈疾患、過換気症候群、骨折、熱傷、脳血管障害、てんかん、溺水、低体温症、出血)について、確認をする。 救急手技(心臓マッサージ、人工呼吸、AED の使い方、包帯法)の気をつけるべき点を確認する。
		②	✓	
		③	✓	
		④		
小テスト	10	①	✓	基礎的な疾患の理解をみる。前回の授業の理解を確認する。 2点×10回
		②		
		③		
		④		
レポート	20	①	✓	・救急と人のいのちについて、資料をもとに考えられているかをみる。 医療と倫理について「安楽死」と「無益な治療の中止」 ・救急学泉マニュアルの作成 (大学生に多いけが、病気の対処法のマニュアルを作成。アンケート調査、聞き取り調査を実施して作成する)
		②		
		③		
		④	✓	
成果発表 (口頭・実技)	20	①	✓	・発表 講義内容に関連した事例のポイントとその内容を正しく説明することができる。 内容の正確さに加え、聞き手にわかりやすく伝える工夫ができていないかについても評価の対象とする。(評価ポイント:説明の流れ、話し方等) ・実技 適切な心臓マッサージ、人工呼吸、窒息時の対応、骨折時の保護を確認する。
		②	✓	
		③	✓	
		④	✓	
作品				
社会人基礎力 (学修態度)	10	①	✓	(主体性) ・必要な知識についてさらに深めた理解するために、文献を使って、自己学習ノートを作成できる。 (実行力) ・目標を設定して、最後まで、知識習得のために、最後まで、やりぬくことができる。実技に関しては練習をして臨んでいる。 (課題発見力) ・主観的情報、客観的情報を連動させて、課題を考えることができる。 (創造力) ・課題を考えると、自己の固定観念にとらわれることなく、文献を活用したり、他者からの意見を取り入れ、考えることができる。 (発信力) ・グループで話し合った結果をパワーポイント・資料を作成し、発表原稿を準備し、発表できる。 (傾聴力) ・グループワークで、人の意見を確認し、さらに自分の意見がのべることができる。 (規律性) ・無断欠席、遅刻、私語など講義に支障をきたす行動をせず、欠席した場合の分の補充ができるよう、クラスのメンバーなど聞き、行うことができる
		②	✓	
		③	✓	
		④	✓	
その他				
総合評価割合	100			

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
<p>秀</p> <p>1. 疾患、人体の機能、救急の処置について、関連づけてわかりやすく資料を作成し、説明することができる。</p> <p>2. 「安楽死」「無益な治療の中止」の事例から、医療・いのちについて考察し、自分の言葉で医療倫理について述べるができる。</p> <p>3. 事例にもとづき特徴をとらえて、心臓マッサージ、人工呼吸、AEDの使い方、包帯法、窒息、止血・熱傷手当)を実践できる。</p> <p>4. アンケート調査、聞き取り調査のデータのもと、大学での起きうる救急場面を想定し、文献を活用して対応策を考え、学泉救急マニュアルのパンフレットが作成でき、説明できる。</p> <p>5. 授業中で配布した資料のみならず、他の文献を使って、系統立ててノートを作成できる。</p> <p>6. テストで、90%以上の正解率である。</p> <p>優</p> <p>上記の1、3できていて、総合評価をして、80%以上である。</p>	<p>良</p> <p>1. 窒息、冠動脈疾患、腹痛、急性アルコール中毒、をわかりやすく資料を作成し、説明することができる。</p> <p>2. 「安楽死」「無益な治療の中止」の違いについて説明できる</p> <p>3. 心臓マッサージ、人工呼吸、AED の使い方、包帯法、窒息、止血・熱傷手当)を実践できる。</p> <p>4. アンケート調査、聞き取り調査のデータのもと、指示に基づき、学泉救急マニュアルのパンフレットが作成でき、説明できる</p> <p>5. 系統立てたノート作成ができていない。</p> <p>6. テストで、70%以上の正解率である。</p> <p>可</p> <p>上記の1.2.3.4 が助言をもとに解くことができた総合評価をして60%以上である。</p>

週	学修内容	授業の実施方法及びフィードバック方法	到達レベル C(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1週 /	路上で倒れている人をみたときの対応	講義 演習 (回復体位)	倒れている人をみたときにアセスメントの仕方を述べられる。	(復習) 路上で倒れている人で想定される疾患と対応 (予習)我が家の救急箱の中身と、考察をする。	180	主体性 規律性 傾聴力
2週 /	救急箱の中身	小テストと解説 グループワーク 発表 講義	とっさの事態に対応できるように救急箱に必要なものを列挙できる。	(復習)場に応じた救急箱の中身(ドッチボール大会、高熱器具を扱う職場、病院など) (予習)脳と意識、肝臓の働きをまとめる。	180	主体性 規律性 発信力 課題発見力
3週 /	意識障害と急性アルコール中毒、けいれん発作	小テストと解説 講義 SNS を使った双方向の授業 実技	意識の確認の仕方が述べられる。 けいれん発作への対応を習得する。	(復習)ジャパンコーマスケールの見方 (予習)心臓、体温調整のメカニズムをまとめる。	180	主体性 規律性 発信力 課題発見力
4週 /	バイタルサインとは 体温、脈拍、血圧	小テストと解説 講義・演習 実技確認	バイタルサインについて観察項目を述べられる。 バイタルサインの測定を行い、手技を習得する	(復習) バイタルサインと意識の見方についてまとめる。 (予習) 呼吸のメカニズムについてまとめる。	180	主体性 規律性 発信力 実行力
5週 /	呼吸 バイタルサインの変化 運動、足浴、芳香による変化	小テストと解説 演習 発表 負荷による変化	バイタルサインの変動要因について述べることができる。	(復習) バイタルサインの変動因子をまとめる。 (予習) 呼吸障害のメカニズムについてまとめる。	180	主体性 規律性 発信力 課題発見力
6週 /	窒息と過換気症候群 ・窒息とは ハイムリック法、119 の通報方法 ・過換気症候群とは ・救急の心構え	小テストと解説 演習 実技	窒息時の対応について理解し、実際におこなえるまでの流れを述べられる。	(復習)窒息時の対応の実技を練習する (予習) 救急の ABC についてまとめる。	180	主体性 規律性 発信力 実行力
7週 /	救急の ABCDE ・気道確保の仕方 ・人工呼吸 ・心臓マッサージ	背部叩打法、ハイムリック法実技確認テスト 演習 実技確認 気道確保、心臓マッサージ	心臓マッサージ・人工呼吸の仕方を習得する。	(復習)気道確保の仕方・人工呼吸・心臓マッサージの実技を練習する (予習) AED とは、大学の AED の場所を探す。	180	主体性 規律性 発信力 実行力
8週 /	心臓突然死とAED ・心臓突然死とは ・AEDとは	小テストと解説 講義と演習 AED の使い方	心室細動の原因と、AEDを使用する目的を説明できる。	(復習) AED の使い方について復習する。 (予習)冠動脈疾患について調べる	180	主体性 規律性 発信力 実行力

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性  
ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法及び フィードバック方法	到達レベルC(可)の 基準	予習・復習	時間 (分)	能力 名
9週 /	急性心筋梗塞と救命の連鎖 ・急性心筋梗塞とは ・救命の連鎖とは 人の死と倫理	小テストと解説 講義 グループワーク (事例 医療と倫理)	心筋梗塞と救命の連鎖を関連付けて述べられる人の死について意見を述べるができる。	(復習)心筋梗塞と救命の連鎖をまとめる。 (予習)医療倫理を考える資料を読んで、レポートをまとめる。	180	主体性 規律性 傾聴力 発信力 課題発見力
10週 /	災害と救急	発表(事例 医療と倫理) 演習 グループワーク (災害時の緊急避難所運営、おこりうる健康障害と対策) 発表	トリアージの考え方をもち、災害時の緊急避難所での対応が述べられる。	(復習)避難所生活でおこりうる健康被害をまとめる。 (予習)避難所運営ででてきたわからない用語をまとめる。	180	主体性 規律性 発信力 課題発見力 創造力
11週 /	熱傷 ・熱傷とは ・熱傷の処置	小テストと解説 講義・演習 実技	熱傷の重症度の判定の仕方を説明できる。熱傷の処置方法を段階に応じて述べることができる。	(復習)熱傷に対する処置方法をまとめる。 (予習)家での入浴環境をまとめる。	180	主体性 規律性 発信力
12週 /	入浴事故 ・入浴事故 ・心臓マッサージ・安全な入浴とは 人工呼吸	小テストと解説 講義と演習 グループワーク(安全な入浴) 発表	入浴事故でおきることを列挙できる。入浴事故を関連付けて、安全な入浴方法を述べられる。	(復習)安全な入浴の仕方をまとめる。 (予習)冬場におきる高齢者の入浴のなぞの溺死について理由を考える	180	主体性 規律性 発信力 実行力
13週 /	骨折と出血 ・手足の骨折 ・骨折の処置・脱臼・包帯法	小テストと解説 講義 実技	骨折や出血による危険性を述べることができる。	(復習)包帯、三角巾の巻き方をプリントをもとに実施する。 (予習)事例に対する包帯・三角巾の使い方を考える。	180	主体性 規律性 発信力 課題発見力 創造力
14週 /	実技 ・骨折の処置 ・出血の処置 学泉救急マニュアルの作成 アンケートと聞き取り調査	実技確認 演習 グループワーク 発表	骨折や出血にともなう救急処置を習得する。	(復習)事例にもとづく、骨折・止血についてまとめる。 (予習)アンケートと聞き取り調査の結果を再考察し、大学における救急場面を考える。	180	主体性 規律性 発信力 課題発見力 創造力
15週 /	学泉救急マニュアルの作成と発表	演習 発表	大学で起こる救急場面とその対策についての学泉救急マニュアルが作成でき、発表する。	(復習)授業の振り返り、試験対策をする。	180	発信力 実行力

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性  
ストレスコントロール力